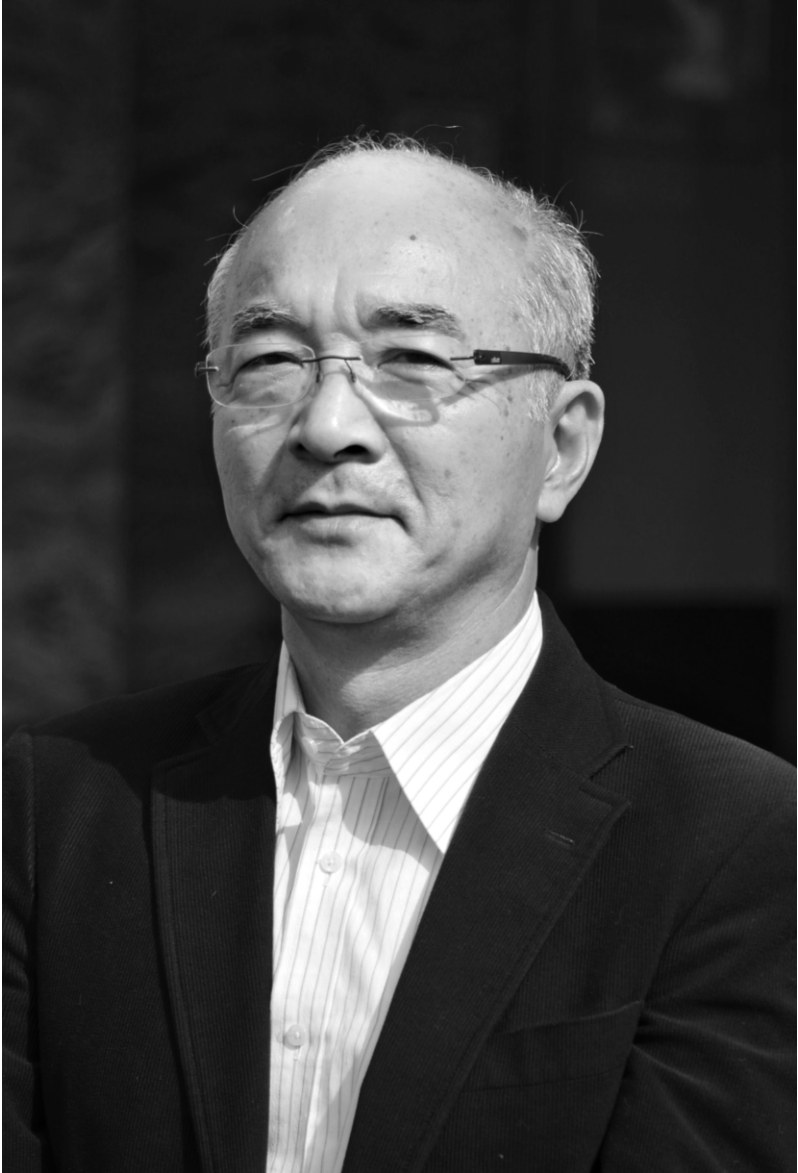


## [082\_02-03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1560252>

---

出版情報：法政研究. 82 (2/3), 2015-12-25. 九州大学法政学会  
バージョン：  
権利関係：



## 九州大学教授 野田 進 先生

野田進教授は、一九五〇年七月一六日に福岡県山田市（現嘉麻市）に生まれ、一九七四年に神戸大学法学部を卒業後、銀行勤務を経て、神戸大学大学院修士課程を修了され、その後東京大学大学院博士後期課程を経て、一九八一年四月、大阪大学法学部に講師として着任された（翌年助教教授に昇任）。そして一九九二年四月に九州大学法学部教授に昇任され、今日に至っている。

野田先生の研究領域は多岐に亘るが、その骨格はフランス法と日本法との比較法に基づく労働契約法制と休暇法制の研究であり、前者については『労働契約の変更と解雇』（信山社、一九九七年）を、後者については『休暇』労働法の研究（日本評論社、一九九九年）等の研究書を刊行されている。近年では、『労働紛争解決ファイル』（労働開発研究会、二〇一一年）など、労働紛争解決システムの実践的研究もみられる。また、定評のある教科書『労働法の世界（一版）』（有斐閣）の共著者であり、著作物は他にも多数に上り、常に現実の雇用社会が直面している問題について、積極的に研究課題とされてきた。さらに、二〇〇七年五月からの一年半の間、日本労働法学会の代表理事を務めるなど、学会活動でも多大な貢献をされている。野田先生の研究・理論は、先生の教育活動や社会活動に還元されると同時に、そうした社会活動等の経験・実践と研究・理論とを架橋するのが、野田先生の研究の大きな特徴であろう。

教育面では、その人柄を慕って、毎年多数のゼミ生が野田先生の下で労働法を勉強し、法科大学院で労働法の授業を受けた多くの法曹実務家が活躍している。また、法学府では、留学生を含めて多数の労働法研究者を養成され、最近では、社会保険労務士などの社会人大学院生の教育にも尽力されている。

大学の管理運営面でも、九州法科大学院（法務学府）長を二〇〇六年四月から二年間務め、二〇一〇年四月から九州大学総長特別補佐に就任し、さらに二〇一二年からは副学長として、九州大学全体の運営にも大いに寄与された。九州大学の国立大学法人化に伴う様々な労働関係の問題への対処も、野田先生によるところが大きい。

社会活動に目を向ければ、一九九四年から二〇〇三年まで福岡県労働委員会公益委員として、二〇〇五年から二〇一五年までは同委員及び会長として、集团的労働紛争の解決に携わり、また、二〇〇一年より二〇一三年まで福岡県紛争調整委員会会長及び主任調停委員として、個別的労働紛争の解決にも力を注がれた。実践と理論という野田先生のスタイルがここにある。

野田先生が定年退職を迎えられるにあたり、長年のご功勞に対する感謝の念を込めて本号を献じるとともに、先生のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げる次第である。